

令和5年度第2回和泉市障がい者施策推進協議会 意見まとめ

	意見	当日回答内容	今後の取組みの方向性や取組内容
1	【樽本委員】 いずみ障がい福祉サービス事業所団体連合会の中で、移動支援の制度が使いにくいということが話題になっている。今後各施設の利用者やスタッフにアンケートを行ったうえで、生の声として行政に伝え、改善に向けて一緒に考えたいと思っているのでよろしくお願いいたします。	移動支援の使いやすさについて、自立支援協議会にて、行き先をみんなで共有できるようにという提案があったことを受け、基幹相談支援センターを中心に、ココスルという情報発信サイトで外出のしやすい店舗等の情報発信を進めているところである。	【その他】 必要に応じて自立支援協議会にて協議を行う。
2	【今西委員】 意思疎通支援事業があるということを知っているのかどうか心配である。情報保障がありコミュニケーションできることが社会参加につながると考える。	意思疎通支援事業について、35名という数値については、件数・実人数の伸び率を考慮して計上している。そのため、35名しか意思疎通支援事業が使えないというわけではなく、申請があれば適切に対応している。意思疎通支援の周知については、聴力障害者福祉協会の意見も頂戴しながら検討したい。	
3	【明石委員】 地域移行部会を通じた連携など、計画の項目にはあてはまらない別のところでやっていることがあるのであれば、そのことを計画に示した方がよいのではないか。		【計画関係】 計画書において、資料編に自立支援協議会や専門部会の体系を掲載する。
4	【藤井委員】 障がい児と障がい者を分けるのではなく、生まれてから大人になるまでの切れ目のない支援ということを考えたうえで計画を立てていただきたい。		【その他】 現在、自立支援協議会において障がい児者の連携に関する意見交換会を実施しており、引き続き意見交換会を通じて児者連携の強化に取り組んでいく。
5	【清水委員】 人手不足の中での人材育成として、もう少し幅広く市民の方々に障がい理解やボランティア活動に入ってもらえるようにし、そこから地道に障がい福祉の従事者にも関心をもってもらって増やしていくことが必要であるとする。	10月21日に実施した「こころともにいずみインクルーシブフェスティバル」のようなイベント形式で障がい理解を展開していくことは、非常に重要かつ有効な機会であると認識している。皆様のご理解・ご協力のもと今後も展開していきたいと考えている。同様に、あいサポート運動において、地道に障がい理解を増やしていくことも継続していきたい。	【その他】 引き続き、あいサポート運動などを通じて障がい理解の普及に取り組んでいく。
6	【大谷会長】 令和3年に社会福祉法が改正され、個人を支えるだけではなく、地域を支えるのが相談の中核で、事業所が担っていくことだとされた。しかし、今まで個人だけを対象にやっていたため、地域を見る目が相談員の中にも育っていないのが特徴である。重層的支援体制整備事業も最終的には地域づくりを目的にしている。		【計画関係】 計画書において、資料編に重層的支援体制整備事業の国資料を掲載する。